



いちよう

歡喜講

かんぎこう

歡喜講は、昭和二十年の東京大空襲により大きな被害を受けた待乳山の復興を願い、信徒の絆を深め、聖天さまとのさらなるご縁を広げることを目的に始められた行事です。お申し込みの方には、お名前を記したお札とお神酒をお授けいたします。



【寺務所にて受付中】
講金：¥3,000

また、法要終了後の正午頃より
信徒会館大広間にて住職による法話もごさいます。
ご法話参加費はいただいております。
どうぞお気軽にご参加ください。

「楽あれば苦」

「♪人生楽ありや 苦もあるさ」

先日歩いているときに、この水戸黄門のテーマが頭の中で何度もリピートされました。歩くリズムが曲のテンポにあっていたのでしょうか。みなさんもそうした経験があると思いますが、これは海外でも「イヤークラフ」とか「ディラン効果」とか呼ばれていて世界共通の事ようです。

「人生楽あれば苦あり」ということわざは「苦あれば楽あり」と続くことが多く、江戸時代にはいろはがるたの「ら」にも選ばれていることわざです。その他にも「禍福は糾える縄の如し」「塞翁が馬」など似たようなことわざが多くあります。人生は良いことがあれば悪いこともあり、トータルでは半々といったことでしょうか。しかしながら実際には苦しみの方が多いと感じる方も多いと思います。

当山では聖天さまの御真言を「オン キリ ギャク ウン ソワカ」とお唱えします。

そもそも観音様を表す種字  は、左の  “ka” に下の横棒“ra”ついて“kara”となり、

右の垂れが付いて母音が“イー”に変わり、涅槃点（点々部分）の“ku”がついて“キリーク”と発音します。南インドの発音を学んだ天台宗系では当山のように「kiri」と発音し、中インドの発音の真言宗系は「オン キリク ギャク ウン ソワカ」と“キリク”いうところが多いようです。しかし真言宗系の寺院の中にも“キリク”の“ク”は観音様が人々の“苦”を除いて“キリ”となつて、聖天さまを表す“ギャク”の“ク”は人々に“楽”を与えるため“ク”を残して「オン キリ ギャク ウン ソワカ」とお唱えする寺院もあるようです。これは聖天さまの慈悲である「抜苦与楽」の教えを表すものといわれています。

聖天さまの御真言をお唱えすることは、本来は吉凶半々といった人生を、観音様が一つ苦しみを減らして、聖天さまが一つ楽しみを増やしていただけるという事です。生きることが苦しいと思える時は誰にでもあります。そんな時には聖天様の御真言を唱えて心からお縋りしてみてもいいのではないでしょうか。きっと心が楽になると思います。

本龍院執事 深谷昌広

浮世絵展

9月19日～10月9日 午前9時半～午後4時 入場料無料
詳しくは中面をご覧ください。

朝まいり会

10月1日～7日 午前8時～8時半 会費：500円也
皆様と一緒に「大聖歡喜天礼拝作法」を読誦いたします。毎日参加されなくても1週間のうちで、ご都合のよろしい日にご参加ください。

写経の会

10月12日(日) 午前10時・午後1時 会費：500円也
お経を一文字一文字丁寧に写すことにより仏様の功德をいただけます。

日曜勤行

10月12日(日) 午前9時 参加費無料
初心の方も気軽に参加いただけるお勤めの会です。

合同大般若法要

10月25日(土) 午前11時 法要料：5000円也
皆さんと一緒に上げる御礼の法要です。

坐禅の会

*予約不要になりました

10月25日(土) 前9時半～10時半 会費：500円也
僧侶より説明を受けながら坐禅の修行を体験できます。
足の悪い方は椅子でのご参加もできます。

ライブ配信のご案内

御縁日法要・合同大般若法要のライブ配信を行っております。

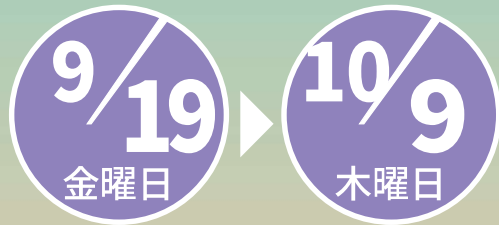
(配信QRコード)



皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。
ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。

浮世絵展開催中

特設サイト
はこちら▶



開催時間：9:30～16:00
場 所：信徒会館大広間特設会場
入 場 料：無料

9月19日より、当山信徒会館特設会場にて浮世絵展を開催しております。
本展では、江戸の人々の暮らしや「粋」の文化、河岸等の賑わいを伝える名品を通じて、当時の江戸の文化を身近に感じていただけます。
作品を通して江戸の風情を味わえる貴重な機会です。入場無料となっておりますので、どうぞお気軽にご来場ください。
また会期中には下記のイベントも実施いたします。展示とあわせて

◆ 浮世絵展限定イベント／ギャラリートーク 参加費無料

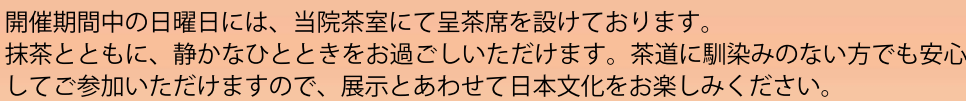
9/23(火祝)、10/5(日) 11時・14時

浅草寺学芸員・藤元裕二氏を迎え、展示会場を巡りながら浮世絵の魅力や見どころをご解説いただきます。
作品世界への理解を一層深められる機会ですので、ぜひこの機会にご参加ください。

◆ お茶席（呈茶席） 参加費：1,000 円

開催期間中毎週日曜日／ 9:30～16:00

開催期間中の日曜日には、当院茶室にて呈茶席を設けております。
抹茶とともに、静かなひとときをお過ごしいただけます。茶道に馴染みのない方でも安心してご参加いただけますので、展示とあわせて日本文化をお楽しみください。



お子さまの健やかな成長を願う七五三参り

御志納金 5,000 円也

秋の訪れとともに、当山では七五三参りを受け付けております（十月～十一月、要予約）。

七五三は、成長の節目にあたる三歳・五歳・七歳の年に神仏へ感謝を捧げ、これからの健やかな歩みを祈る伝統行事です。一般には女の子が三歳と七歳、男の子が五歳でお祝いしますが、地域やご家庭によって三歳・五歳・七歳すべてを祝うこともあります。ご参拝はご家族ごとに本堂で行われ、行者が直接お加持をいたします。あわせて、お子さまのお名前を記したお守りとお供物を授与いたします。特に土・日曜はお申し込みが集中いたしますので、希望される方はどうぞお早めに寺務所へお声がけください。



「灯明講」……………

8月20日(水)当院世話人による献灯の儀が行われ御宝前にお灯明をお供えし、灯明講大般若法要を執行いたしました。



「関東大震災回向法要」

9月1日(月)1923年に発生した関東大震災でお亡くなりになられた方のご回向を聖天公園の石碑の前にて執行いたしました。



「朝まいり正五九大般若法要・斎食」

9月7日(日)朝まいり会の正五九大般若法要を執行いたしました。最近では朝まいり会も参加者が増えました。大勢で一心となり気持ちのこもった力強いお勤めをすることで心が清らかになります。また、正五九開催の斎食も開催され、食事(じきじ)作法に則り、おかゆを頂戴いたしました。会員限定の行事も多く開催しておりますので、皆様も朝まいり会へのご入会を是非ご検討ください。



ご祈祷のご案内

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力がより一層高められ、私どもが不可能と思われるような願い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。
当山ではこの浴油祈祷を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈祷期間をお伝え下さい。
またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

祈祷料

別座祈祷 壹万二千元(一週間)
浴油祈祷 四千元(一週間)
華水供 六百元(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壹万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

「焼 香」 加藤優心

用語

コラム

皆さんはお寺にお参りに来て境内に入った際、日常と切り離されたようなすこし特別な空気感を感じたことはあるでしょうか？これは何もスピリチュアルな反応というわけではありません。境内に漂う「香り」が日常と違うことからこのように感じるのです。この香りの正体は「お香」です。境内では線香、お

堂では焼香の香りを常に感じられると思います。これは匂いこそ違えど全国の寺院ではほぼ同じだと思います。それほどにお寺とお香には深い繋がりが有るわけです。そこで、今回はお寺とは切っても離せないお香についてお話ししたいと思います。

お香には大きく分けて、香木を砕いた「焼香」、粉末にした「塗香」棒状に固めた「線香」があります。焼香、線香は法事や自宅のお仏壇でも使用されていますが、塗香はあまり一般的ではありません。当山ではお参りされた際、塗香を使用することを勧めていますがお坊さんではあまり塗香を一般の方に勧めることはなく、お坊さんのお勤めの際に使うだけです。ですが、この塗香が本来のお香と呼ばれるものだったそうです。その起源は仏教の始まりインドにあります。気温も湿度も高いインドでは、体臭などを消すために地元で産出される白檀などの香木を粉末にして体に塗っていたといわれています。また、お釈迦様が瞑想の際にリラックスして集中するためお香を使ったという言い伝えもあります。

日本におけるお香は、仏教の伝来と共に入ってきた為、仏教儀式の一環として香を焚く文化が発展していきました。塗香を使うのは、体の匂いを消す事変じて体を清める事となり今でも使われています。また焼香に関しても「香食(こうじき)」といって、仏様や故人は香りを食べるという考え方があります。特にお香の良い香りは最上の食べ物とされており、「仏様や故人に敬意と感謝を込めて食事を楽しんでいただく」、「故人があので食事に困らないように」、「故人が極楽浄土へ行けるように」という思いが込められているそうです。ですから時々焼香の回数や量を気にされる方がいますが、本来の意味を考えると所作よりもおもてなしの気持ちが大切であるといえます。このように、お寺の「香り」一つとってみても様々な意味がありますので、ぜひお参りの際には塗香で身を清め、焼香で日頃の感謝を伝えてご自身もお香の香りでリラックスしてみたいかがでしょう。

